

「杉木立タイム」の取り組みの中で

～『福祉・ボランティア』をテーマに～

はじめに

本校は全校生徒数 36 人(1 年生 13 人,2 年生 7 人,3 年生 16 人)の小規模校で町庁舎から南へ 6 km の山間に位置している。西に名久井岳、そして麓には北条時頼公開基の寺、白華山法光寺、また校地に沿って如来堂川のせせらぎがあり四季折々の美しさを彩る農業中心の学区である。生徒は受動的で引っ込み思案な傾向があるが、3 つしかない部活動ではいずれも県大会に出場するなど前向きに物事に取り組むことができる。

名川町の小・中・高等学校 8 校は[豊かな体験活動推進事業]の共通テーマとして、『郷土を愛する豊かな心を育む体験学習』を掲げた。本校ではこれに基づき、昨年度の取り組みを踏まえ、郷土を守ってきたお年寄りとの触れ合い交流や地域でのボランティア活動に主眼を置いて、「総合的な学習の時間」の中に体験活動を位置づけることとした。

本校における体験活動の概要

- 1 **昨年度の取り組み**(1, 2 年共通テーマ縦割り構成で実施)
 - (1) **前期の活動(4月～10月)**「身の回りを取り巻く自然や環境に目を向け自分とのかかわりを考えさせ、生き方考える機会とさせる。」
 - ア 体験活動 「学校の外へ出てみよう」……ネイチャーゲーム、ウォークラリー等。
 - イ グループ作り……アンケートと感想文をもとにして興味関心の傾向別に。
 - ウ 体験活動 「そばを育てて料理しよう」……畑作り、種まき、収穫、脱穀、そばうち。
 - エ グループ活動……調査、インタビュー、資料作り、文化祭での展示と発表会。
 - (2) **後期の活動(11月～3月)**「福祉・ボランティア活動を通して、自分と他者とのかわりに目を向けさせ、気づき、考え、探求する力を身につけさせる。」
 - ア 体験活動 「キャップハンディを体験する」……アイマスク・白杖での歩行体験、車椅子体験、手話を学んで歌を歌う体験等。
 - イ 体験活動 「心肺蘇生法を学ぶ」……人工呼吸法、心臓マッサージの体験学習。
 - ウ 体験活動 「地域のお年寄りと交流する」……町内デイサービスセンター訪問。
 - エ 体験活動 「達人にインタビュー」……グループテーマ毎に訪問先を決め、インタビュー。
- 2 **今年度の取り組み**(全学年共通テーマ「福祉・ボランティア」縦割り構成で実施)
～ 昨年の活動の反省・要望から、生徒・職員で話し合い活動計画を作成～
 - (1) **ねらい**
 - ア 障害者や老人との交流体験活動を通して、自分と他者とのかわりや自分自身の立場に目を向けさせ、生き方考える機会とする。
 - イ 身近な所にあるボランティア、自分にもできるボランティア活動を探し、実践力を身につけさせる機会とする。
 - (2) **活動計画の概要**
 - ア 体験活動 (6月に実施、6時間[1日])
『特別養護老人ホームながわ』と『広場デイサービスセンター』・『デイサービスセンターあじさい』訪問～12人グループで3箇所へ。
……入浴介助、洋服着脱の手伝い、会話や遊びで触れ合い交流、食事配膳等。
 - イ 体験活動 (7月に実施予定だったが台風のため2学期に延期、6時間[1日])
心配蘇生法・応急処置の体験学習～2人組で。
……人工呼吸法・心臓マッサージ・包帯法等～消防署員を講師に体験学習。
 - ウ 体験活動 (8月に実施、2時間)

学区地域のゴミ拾いボランティア活動とゴミの分別作業。

… 5, 6人ずつの小グループで、学区の通学路を中心にゴミ拾い。

エ 体験活動 (9月に実施、6時間[1日])

青森県民プラザ訪問～17, 8人ずつの2グループに分かれて活動。

… プラザ内介護福祉センターにて介護実習 ベッドから車椅子への移動、寝返り介助、介護用ベッドの使い方等。(センター職員を講師に)
プラザ内バリアフリー施設にて体験学習 車椅子用段差昇降機、車椅子での擬似体験、ベッド・トイレ・風呂の工夫と使い方等を体験した。

オ 体験活動 (10月に実施、3時間)

知的障害者更生施設「清岳園」訪問～5, 6人ずつ6グループで活動

… 果樹班、草取り班、家畜舎清掃班、散歩班、窓ふき班、園内清掃班に分かれ、園生と一緒に交流しながら作業にあたった。

鼓隊部(女子13名全員)の演奏披露と全校合唱のプレゼント。

カ 体験活動 (11月に実施、6時間[1日])

地域のお年寄りを講師に招き体験学習。

… 工芸品作り～かご細工を学び全員、1人1個ずつ作成。

郷土料理作り～ひつつみ班、麦もち班に分かれて昼ご飯作り。

ゲートボール～7チーム編成。お年寄りから指導を受けた後、試合。

キ 体験活動 (1月実施、6時間[1日])

体験学習 とほぼ同様の活動。老人ホームとデイサービスセンターの訪問。

様々の体験学習を経た後の生徒の変容・成長が見られた。

活動例(体験活動、)

体験活動 『デイサービスセンター』『特別養護老人ホーム』訪問

昨年度は、全校生徒(35人)が午後2時間使って「デイサービスセンターあじさい」を訪問したが、人数が多すぎ仕事が行き渡らず時間も足りなかった。そこで今年は、3カ所に分散して1日計画で実施することにした。

1、ねらい デイサービスセンターや特別養護老人ホームを訪問して、お年寄りの介護のお手伝いや交流をすることにより、福祉・ボランティアに関する見識を深め、自ら考え学ぶ場とする。

2、日時 平成14年6月8日(水) 8時30分～15時30分

3、参加者 全校生徒～36名(男子23名 女子13名) 職員～7名

4、訪問先 A班 デイサービスセンター「あじさい」 B班 広場デイサービスセンター
C班 特別養護老人ホーム「ながわ」

5、体験学習の内容

デイサービスセンター(広場・あじさい)

- ・午前～入浴の手伝い、着替えの手伝い、洗髪、ドライヤーかけ、折り紙づくり、新聞たたみ作業、食事の盛り付け、配膳の手伝い、かたづけの手伝い等 会話・見守りしながら。
- ・午後～(通所者の昼寝中)車椅子操作、リフト、機器等の説明、体験。布団たたみの手伝い、体操、ゲーム。歌(校歌・童謡)や踊り(よさこいソーラン)等のプレゼントで交流。

特別養護老人ホーム「ながわ」

- ・作業～窓拭き・花壇の手入れ等屋外活動、配膳、エプロンやおしぼりの配布、昼食準備手伝い、洗濯物やおムツたたみ等。・出し物～ゲーム、歌や踊り、ダブルタッチなどを披露。

6、その他事前に配慮した点

- ・各班、それぞれ更に3つの小グループに分けて仕事をローテーションさせてもらった。各班とも

- 入浴や着替え手伝い等があるので、男子だけ女子だけの配置にならないよう配慮した。
- ・各グループごとに、お年寄りの喜びそうな歌や出し物を考え、練習させた。
- ・「お年寄りにけがをさせたりしないこと」「嫌な思いをさせないこと」を重点として活動に向かわせた。

7、活動終了後の生徒の取り組み

- ・お年寄りへの絵手紙 花や景色、体験時の様子の絵と簡単なお見舞いの文章
- ・職員の皆さんへの礼状 ・自己評価カード記入と簡単な感想

8、成果や課題

- ・交流の最もベースとなる『会話』が難しかったという感想が多かった。「お年寄りに話しかけることができたのがとてもよかった」と感想を書いた生徒がかなりいた。また敬意の表し方や社会のルールを知るきっかけともなった。
- ・最後まで自分から話し掛けたり、手をかしたりできない生徒もいた。また、行動が粗野でお年よりの乗っている車椅子を壁にぶつけてしまったり、うまくコミュニケーションをとれなかった生徒もいたが、帰校後、適切な助言を行った。

体験活動

『ふるさと』体験学習

ふるさとの良さを見直し、お年よりの知恵を学ぼうというふたつのねらいで計画した。生まれた時から住んでいる土地なのによさが見えない・わからないということは、我が校だけではなく言えることであろう。この計画については特に、学校支援委員会の協力を受けて地域のお年寄りに講師を依頼して実現することができた活動である。

- 1、ねらい 地域のお年寄りに、郷土の工芸品の作り方・料理方法・スポーツなどについて指導していただきながら交流を深め、昔の知恵や郷土のよさを学ぶ場とする。
- 2、日 時 11月28日(木) 8時35分～15時30分
- 3、場 所 名久井第二中学校・・・家庭科室・ホール・体育館
- 4、参加者 全校生徒 35名(男子22名 女子13名) 職員 11名
- 5、体験学習の内容

かご作り...全員一人一個ずつ作る。3名の講師がみえるので3グループに分かれる
テープを切るため、必ず全員はさみを持参する。～ホール

郷土料理...ひつまみ班と麦もち班に分かれてそれぞれ全員分作る(約60人分)

ゲートボール...全員参加で行う。(1チーム5人で7チーム作る。)～体育館

6、事後指導

- ・講師のおじいさん、おばあさんたちへのお礼の絵手紙・自己評価カードと感想

7、成果・課題

- ・お年寄りとの交流から、自分達の祖父母の知らなかった一面を見た生徒が多くいた。ゲートボールのおもしろさや難しさ、ただ食べていただけだったがこんな手間隙のかかったものだったのだと再確認した郷土料理、なかなか形が整えられないかご作りなど、身近なものの中に再発見がたくさんあったことが、自己評価カードや感想の中にあらわれていた。
- ・決まった枠の中で作業を進める場合、時間の予測が困難。外部講師に共通する注意点。

体験活動

『デイサービスセンター』『特別養護老人ホーム』訪問

今年度の体験学習のしめくくりとして、第1回と同じ内容の活動を設定した。1年を通して様々な体験活動を経験し、生徒たちの中に実践力や積極性が培われ、第1回の活動での反省が生かされるような学習ができるように、最後の体験活動に取り組みせたいと考えたからである。

1、1回目と比較しての成果

コミュニケーション能力の向上

- ・目に見えてお年寄りとの会話がスムーズになり、会話を楽しんでいる様子が見られた。
お年寄りへのいたわりや思いやりの気持ちの表現
- ・施設での態度～手を貸すタイミングをきちんと見ている。食事の世話や、汚れたものの始末も行うようになった。お年寄りと自然に視線を合わせて会話していた。
生徒自己評価より(『1回目の体験活動での反省を活かして、今回の活動に取り組むことができましたか。』という質問 意識して積極的に向かおうとする姿勢)

A しっかりできた。28人 B 大体できた。6人 C あまりできなかった。0人 D ほとんどできない 0人				
第1回「特別養護老人ホーム・デイサービスセンター-訪問」自己評価結果	A	B	C	D
施設職員の方々の、お話や指示をきちんと聞くことができましたか。	30人	5人	0人	0人
積極的に作業をしたり、お手伝いをすることができましたか。	22人	11人	2人	0人
お年よりと会話をしたり、触れ合い交流ができましたか。	15人	11人	9人	0人
「ボランティア・福祉」について、考えを深めることができましたか。	25人	9人	1人	0人

第7回 体験活動 自己評価結果				
	A	B	C	D
	33人	1人	0人	0人
は特に 変容が大き かった。	26人	8人	0人	0人
	28人	6人	0人	0人
	29人	5人	0人	0人

2、課題

この活動は教科学習だけでは得られぬ大切なものを教えてくれた。しかし、準備と後指導には時間と労力が必要なほか、担当者の負担や教科の学習時間にも影響が及ぶ。

また、長期の展望を持った活動計画を作ることが必要である。

成果と課題（活動全体を通して）

- (1) 成果～・少人数の学校であり、固定した人間関係で外に出ると引っ込んでしまいがちだったが、外へ出る機会が増え、挨拶や言葉がけに積極性が出てきた。
 - ・作文や弁論等に体験活動の経験が盛り込まれることが多くなり、考えを深めたり、人生や生き方を見つめるきっかけとなっていた。
 - ・絵手紙やお礼状の絵や文面に、相手への思いやりや気遣いを示していた。
- (2) 課題～・自ら積極的に実践する力を身につけさせるために今後も継続的な活動に取り組む必要がある。

